

2－3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 多様な学びの場づくり】	
・ 「学びを通じた地域づくりプラットフォーム構築事業」において、鹿角・潟上・横手の3市で「地域連携コンソーシアム」を形成し、部局横断的な事業を展開した。各機関が一体となり、ニーズ把握や共生の場づくりを実践後、そのプロセスを「eポートフォリオ」として実践事例集に集約した。これにより地域全体で学びを支える連携モデルが可視化され、全県展開の指針となった。	
・ 県立図書館では、市町村立図書館、学校図書館向けの展示・貸出用セット資料の内容追加及び更新を継続して行ったほか、県民の課題を解決するための各種展示を実施し、多様な読書ニーズに応えるための機能強化に努めた。	
・ 「読んだッチリレー文庫」の設置（累計設置数1,055か所）や、「県民読書の日」に合わせたトークイベント(参加者数404名)などの実施により、子どもの読書環境の充実や、県民が読書に親しむ気運の醸成を図った。	
【施策の方向性② 良質な文化芸術に親しむ機会の充実と文化遺産の保存・活用】	
・ 県立博物館施設4館における利用者数は、目標を上回る結果となった。各施設で開催した特別展・企画展に多数の来館者があったほか、地域の教育機関や各種団体、企業等と連携した「みんなのMuseumプロジェクト」により誰もが学び、楽しむことができる博物館施設として、良質な文化芸術に親しむ機会を提供した。	
・ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、縄文遺跡群や民俗芸能等を活用する機会を設け、学校等とも連携しながら文化財の魅力を発信した。また、郷土食調査事業の成果を発表する機会を設け、文化財の継承活動への意識を高めた。	

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
b	成果指標の達成率を基にした定量的評価は、3.50で「b相当」であることから、総合評価は「b」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文	県民がライフステージや生活スタイルに応じて学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。					
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	14.2%	14.0%	13.5%		
	十分 (5点)	1.8%	1.7%	2.5%		
	おおむね十分 (4点)	12.4%	12.3%	11.0%		
	ふつう (3点)	48.9%	41.9%	43.1%		
	否定的意見	17.4%	27.2%	25.3%		
	やや不十分 (2点)	11.1%	17.8%	17.4%		
	不十分 (1点)	6.3%	9.4%	7.9%		
	わからない・無回答	19.5%	16.9%	18.2%		
	平均点	2.90	2.75	2.79		

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。
※2026(R8)年度は2025(R7)年度以前と質問内容が異なるため、結果は記載していない。

参考：2026(R8)年度県民意識調査の結果

質問文	県民誰もが生涯を通じて学ぶことのできる環境が整っている					
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度						
満足度	5点				2.3%	
	4点				9.5%	
	3点				33.5%	
	2点				22.6%	
	1点				12.6%	
	わからない・無回答				19.5%	
	平均点				2.58	

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。
※2026(R8)年度は2025(R7)年度以前と質問内容が異なるため、2025(R7)年度以前の結果は記載していない。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ コンソーシアム形成に取り組んだ先行3市では、障害者の生涯学習に係る組織的な連携が進む一方、多くの市町村では受入れ態勢はあっても具体的なノウハウが不足しており、実際の受入れが進んでいない。また、人材不足が課題となっている中、地域として持続可能な支援体制をいかに構築していくかが喫緊の課題である。 ○ 人口減少に加え、情報メディアの多様化によるライフスタイルの変化により、図書館の貸出利用が伸び悩んでいる。住民のニーズに即した「多様な学びの場」としての機能強化や、物理的な拠点としての価値創出が十分でないことが課題である。 ○ 子育て・働き盛りの世代や若い世代を中心に、読書時間の確保が困難な傾向が見られるほか、情報通信手段の多様化による読書離れの傾向が顕著である。 ○ 指標として設定している「県立・市町村立図書館等の個人貸出冊数」は、県民の読書活動推進に向けた組織的な取組を推進してきたものの、4年間を通して、目標の達成には至らなかった。	○ 令和8年度からの「地域の学びを支えるプラットフォーム構築事業」において、先行事例（eポートフォリオ等）をパッケージ化して全県に展開し、各市町村が着実にノウハウを習得できる環境を整える。将来的には、市町村が自立して継続できる体制づくりを支援し、最新の知見を生かした実効性の高い学習支援体制を推進する。 ○ 市町村立図書館や学校図書館に対して、読書推進の先進事例や、「本を借りる場」だけではなく「多様な学びの場」として利用者の創出につなげる取組についても情報提供を行い、全県の図書館活性化や読書推進を図っていく。 ○ 第4次読書活動推進基本計画に基づき、ライフスタイルに応じた読書活動を促進するため、「あきたブックネット」等により読書の魅力や多様な読書方法等を発信する。あわせて、民間団体と連携した気軽に参加できる読書イベント等の開催により、読書を通じた交流機会を提供するなど、県民の読書への興味・関心を高めていく。 ○ 令和8年度から始動する「秋田県総合計画」及び「第4次秋田県読書活動推進基本計画」のもと、社会情勢の変化に応じた「読書活動の活性化と地域の読書環境の充実」を図ることで、「多様な学びの場」としての新たな図書館利用者の創出や、読書習慣の形成に向けた取組を一体的に推進していく。
②	○ 高齢者や障害者、不登校児童など、社会とのつながりが弱く、博物館施設を訪れる機会が少ない方々について、来訪機会を確保する取組が不十分となっている。 ○ 指標として設定している「県立博物館施設4館の利用者数」は直近2年間は目標を達成しているものの、4館同士の連携が十分ではない。 ○ 縄文遺跡群や民俗芸能、郷土食など本県の文化財の魅力を発信しているものの、継承に向けた地域住民や関係者の気運の盛り上げが不十分である。	○ 地域の教育機関、各種団体、企業等と連携を深め、これまで博物館施設に関心が低かったり、利用が困難だった方々へのアプローチを一層推進するとともに、メタバースをはじめとした新たな利用方法をアピールし、全ての人に利用機会を提供していく。 ○ 令和8年度からの4年間においては、県立博物館施設各館の取組に加え、4館連携展示や共通テーマでの広域展示の開催等を展開することで、すべての人に開かれ、文化の継承や賑わいの中心となるミュージアムの実現を推進する。 ○ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、観光部門や地域づくり部門、学校教育等との連携をさらに進めることで、地域住民や関係者の気運を盛り上げ、継承に向けた取組を推進する。

6 政策評価委員会の意見